

## ジャクソンホールと QE3 の可能性

FRB は6月に QE2 を終了し、当面は FRB のバランスシートの水準を保ちながら出口戦略を探っていたが、経済状況は FRB に一層の金融緩和策を強いることになった。

昨日の FOMC では時間軸政策をさらに強化した。少なくとも今後2年間はフェッドファンドを最低水準に保つ。これまではしばらくの間、少なくとも2, 3ヶ月との解釈、だったが、ゼロ金利政策を長期間続けることを明確にした。

さらに必要な政策手段を講じることを検討していることも明らかにした。それが具体的にどんなものかはまだ判明しないが、QE3(量的緩和第3弾)の形になることも考えられる。

昨年8月、米国ワイオミング州のジャクソンホールでの FRB 主催の会議でバーナンキが QE2 を示唆したが、外為市場への影響は甚大だった。直ちにドル安が進み、実際に米国債の購入を始める11月にはドルが戻す展開になった。

まさに Buy on the rumor, sell on the fact.

今年も8月の終わりごろにジャクソンホールでの会議が予定されているが、そこで昨年の再現が見られる可能性がある。

ただ状況は昨年よりも悪化している。一つは米国や欧州の国家債務の問題とそこから生じた信用の悪化だ。財政からの支援が期待できない以上、金融政策に一層の負担がかかる。もう一つは中国などに見られるインフレ率の上昇と成長の鈍化だ。新興国が世界経済の成長を牽引する度合い低下する。

となれば FRB は QE2 よりも大胆で多様な政策を講じなければ効果は期待できない。そのような政策が今月中に示されるのではないか。